

5 適切な手法での生物生息環境の改善等による生物多様性の維持増進

福井：生息環境整備によるアベサンショウウオの生息環境の維持

越前西部に生息するアベサンショウウオは、山裾や谷津奥の湧水湿地で冬季に産卵し幼生期を過ごす。通年水のある小さなため池や浅い水溜りが必要で、そのような場所にはメダカやゲンゴロウ類など他の水生生物も生息する。この地区の特徴は、小さな谷が連続する複雑な地形であり、その谷の一つ一つが希少種の生息環境を支えている。

しかし谷津田や水路・ため池は近年利用されなくなり、その結果として開発の対象や土捨て場となるなど、生息環境は悪化しつつある。

越前西部地域では、管理放棄された水辺の再生活動を、希少野生生物指導員等を核として集落単位で行うことで、希少種をはじめとする生き物の生息環境の維持改善、ネットワーク化、安定化に寄与している。



入り組んだ谷津は里山と平地の田んぼで繋がっている



自宅近くの水辺を保安全管理する指導員



アベサンショウウオ 幼生